

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102871		
法人名	医療法人社団久誠会		
事業所名	鏡島弘法前ケアセンター		
所在地	岐阜県岐阜市鏡島中2丁目9番13号		
自己評価作成日	令和6年10月5日	評価結果市町村受理日	令和7年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170102871-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和6年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族との繋がりを大切に、感染対策に注意しながら、出来る限り面会を継続するようにしている。最近家族と外出・外食を楽しんで貰っている。また、食事は少ない楽しみである為、利用者の希望を取り入れながら工夫を凝らして色々な食事を提供するようにしている。季節毎の行事で暮らしを豊かにするような工夫をしている。利用者一人一人の残存機能に適した作業やリハビリに取り組み、レクの充実に努めている。災害訓練・認知症についての勉強会など職員のスキルアップにも力を入れている。老健・居宅・デイサービスとも連携を取り、その時々で対応し地域の方々の安全な生活に繋がるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

勤務歴10年以上になる職員が多く、定着率も良い。常勤職員の配置を手厚くし、利用者に関わる時間を長く確保することで、「関係性の構築」という良い効果が生まれている。新しい職員には業務に慣れるまでしっかりと教育する方針を徹底し、経験豊富な職員が中心となり、職員が協力し合う、質の高いサービスを提供する取り組みがある。

コロナ禍を経て、利用者の生活環境の変化をきっかけに、新たな楽しみを増やしている。喫茶店に行ったような気分を味わってもらえるように、ティータイムには、利用者に飲み物を選んでもらったり、買い物外出の代わりに、ホームにきた移動スーパーでおやつを買ったり等、職員の様々なアイデアと工夫で、利用者の生活の充実を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 部	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が考えた理念が出入り口に掲示しており、日々の実践につなげている。	昨年度、法人理念を基本としたホーム理念を新たに掲げるようになった。職員が一丸となり、1年をかけた話し合いから生まれた理念であることから、職員の思い結晶であると言える。この取り組みで、より一層理念の存在が浸透する結果となった。	新しい理念の定着までの取り組みとして、入職時の説明の他、既存職員においては、職員会議で読み合わせを行なう等、定期的な周知が期待される。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月一度の認知症カフェへの参加など、利用者の能力に応じた外出や地域との交流が行われている。	法人内で開催する認知症カフェは、地域の人にも開放し、利用者が参加するだけでなく、接客係を担当したことがある。地域に出向くばかりではなく、地域の人たちに気軽に立ち寄ってもらえる場所づくりを大切にしている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に開催し、利用者の近況、行事などを報告している。家族からの疑問や希望を聞き、サービス向上につなげている。	運営推進会議でホームの活動報告をした際、家族からAED研修に参加したいという意向があり、法人本部に意見を挙げた例がある。利用者家族の参加を増やすため、開催前には声掛けをし、参加を募っている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、事業所の実情やケアサービスの取組みを伝えている。	市の担当者とは、利用状況の毎月の報告(メール)の他、不明点などの質問や、何かあれば相談できる関係性を築いている。地域包括支援センターとも情報交換等を行っており、空き状況の問い合わせを受けることがある。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で月一回の身体拘束と事故対策委員会が行われており、利用者の安全を常に意識合っている。身体拘束マニュアルが作成されている。	法人全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員トイレにスピーチロックの例を掲示し、「ついついやってしまった」ということがないように、常に確認できる工夫がある。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事故対策委員会実施の勉強会を行っている。毎月のミーティングでも管理者から注意喚起している。スピーチロックについても、圧迫感を与えず介護者の要望を伝える為の具体例が掲示してある。	職員が、気持ちに余裕を持てるように、職員同士が協力し合うことを大切にしている。職員会議で虐待等に関する議題を挙げ、ケアの不明点を放置せず、不適切ケアからつながる虐待を、事前に防げるように取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員の研修報告により、制度の把握に努めている。過去に後見人の活用事例はあるが、現在は活用を要する利用者はいない。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にグループホームでの生活状況を説明し理解と納得の上、契約頂いている。法改正や利用料の変更があった場合には、書面を用いて同意を頂いている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にはケアプランの説明や面会時に、利用者からは普段の会話より聞き取っている。運営推進会議にも参加して頂いている。	家族とは良好な関係にあり、励ましや感謝の言葉だけではなく、時には厳しい意見も届いている。家族からの意見を真摯に受け止め、職員周知の上、早期の改善に努めている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングにて、業務に関する意見を出し合い話し合っている。一人一人の意見に対し実践し改善を行っている。また、日々の業務の中で意見を言いやすいような環境作りに努めている。	会議やホーム内研修等、全職員が参加できるように開催時間を工夫している。顔を合わせた話し合いは、活発な意見交換につながり、改善提案も出てくる。SNSを活用した迅速な情報共有が功を奏し、意見や提案の表出も早い。管理者は、必要に応じて法人本部に職員の意見を上げている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	給料水準においてはキャリアパスを構築した。年に一度のリフレッシュ休暇や誕生日休暇が実施されている。人材不足の為規定日数の休暇が取れていない。	希望休が取れるようにシフト調整をしたり、子育て中の職員の勤務時間帯希望等に柔軟に対応する等、働きやすい就業環境整備に努めている。定時で帰る、休むときは休む等、オンとオフの切替えをハッキリさせ、忙しい時はお互い様という気持ちで、職員同士が協力し合える雰囲気がある。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスの構築に伴い、希望の研修だけでなく、キャリアに応じた研修を選ぶことが出来る。研修委員会や管理者により、本人の資質やキャリアに応じた研修を具体的に勤めている。	職員一人ひとりの成長スピードに合わせた研修機会を提供し、資格取得等に積極的に取り組めるように、費用の補助や勤務調整等を行っている。職員間で学び合うこともモチベーションアップにつながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修や勉強会の参加により、他事業所の職員との交流を図る様に一人一人が努力しているが、今は研修もオンラインで交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や会話の中で、昔の習慣や知恵を学ぶことがある。縫物や洗濯たたみ食材の皮むき等の日常生活や、TVや新聞の話題で喜怒哀楽を共有している。季節に応じて紫蘇ジュースやおはぎ作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向は、衛生面や事故のリスクを考慮した上で出来るだけ取り入れるように配慮している。好きだった歌や番組が見られる様に自室にテレビを置いている方もいる。移動販売での買い物を楽しんで貰っている。	利用者の日々の思いを大切に、その時のその言葉を拾うようにしている。利用者の思い出話から得た生活歴や、家族からの情報を併せ、思いの実現に向け、支援方法を検討している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日誌等を確認して各自情報収集し、毎月のミーティングでは状況の変化や出来る事、問題等を話し合いそれに沿ったプランを立てている。	家族へ日常の様子を伝え、意向の確認を行っている。介護計画作成には職員全員が関わり、職員意見を集約して支援内容を検討している。状態や状況、意向変化に伴う介護計画の見直しや変更には柔軟に対応している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録に加え、朝の申し送りや毎月のミーティングでは状況の変化や出来る事、問題等を話し合いそれに沿ったプランを立てている。	記録のICT化を進めつつ、日々の記録は手書きやSNSを併用することで、職員間で情報共有しやすくなっている。小さな出来事も記録に残し、介護計画に反映するように努めている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアマネ、担当職員を軸に、面会時に家族からの意向や多職種からの意見を取り入れながら色々な実践の中から、より本人に添った支援を流動的に行っている。デイのボランティア行事に参加している。	同一建屋内にデイサービスがあるという強みを活かし、行事等で交流を図っている。母体が医療法人であることもあり、医療の専門職へ相談しやすい環境にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族の面会、支援を受け外出・外食したりと家族・利用者様に安心・安全な支援を続けている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	系列法人の三浦医院に定期受診すると共に、本人・家族の希望に応じてかかりつけ医に受診して貰い、残薬状況を家族と共有している。本人の病状に合わせてそれに適した医療機関に受診して貰っている。	母体の法人医療機関がホームの協力医となっている。地域密着の医院であり、利用者にも馴染みがあり、元々のかかりつけ医であることも多い。馴染みの関係が相まって、家族との連携も取りやすく、信頼関係が医療面の安心につながっている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する時は系列法人の医師が家族と相談し、医療機関を紹介している。入院中より医療機関との相談や情報交換は地域連携室を通じて密に行っている。	入退院時は協力医医師が関わり、的確な情報提供を行っている。退院後にホームに戻ってからのリハビリを職員がサポートする等、長期入院を防ぎ、早期に慣れた環境のホームに戻れるように支援している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は家族と医師とで話し合い、本人の病状と意思を聞きながら対応している。終末期における家族の揺れる思いや不安に対し、その都度十分な説明を行い、書面での確認を行い、家族が納得いく終末期を送れるよう支援している。	入居契約時に重度化に関わるホームの方針を説明し、同意を得ている。同時に本人と家族の意向を確認している。その後は本人の状態と状況変化の都度に意向の確認を行い、希望に沿えるように対応している。看取り支援後に、家族から感謝の言葉をいただき、職員が職務の励みにしている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、事業所に置いてある。休日・夜間の連絡先に変更があればその都度周知している。救急隊への情報提供シートも作成。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	震災訓練・火災訓練(昼・夜間)・水害訓練を年間4回行っている。また月1回のミーティングで必要に応じ勉強会を実施している。地域との協力体制は不明。	定期訓練時に消防署から助言をもらい、抽出した課題には、その都度改善策を検討している。併設するデイサービスの職員や利用者同士が日常的に交流し、顔見知りになることが、災害時のサポートを受けやすくなる関係性につながっている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人で接遇委員会を設置しており、全体目標・グループホーム目標を目の付く所に掲示し、言葉遣いの改善に取り組み、評価も行っており意欲向上に努めている。	トイレの扉を閉めて排泄支援を行なう等、利用者尊重の支援を徹底している。プライバシーに関する勉強会を定期的に行い、職員の意識統一を図っている。接遇に関するアンケートの、集計結果から見えてくる課題を把握し、具体的改善に努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人の会話や行動、表情等からその時の思いを感じ取り支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の状態や行動、習慣、今考えている事を察知しながら支援している。理解力のある方には直接希望を聞いている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の準備やテーブル拭き、食後の食器拭き等、利用者の協力を得ながら行っている。季節の食材や寿司・刺身等希望を聞きながら取り入れている。	食事は、温かいものを温かいうちに食べてもらうように、利用者の協力を得ながら、手際よく調理を行っている。利用者からリクエストがあったメニューも、可能な限り提供している。職員が持ってきた旬の野菜等もメニューに取り入れている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	DSの営業日には1階の厨房より昼食を提供してもらい、夕食や休日の食事は「何を」「どれだけ」食べたら良いかを考えながら職員が手作りしている。毎日食事・水分のチェックを行い体調の把握にも努めている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人の能力に応じ、毎食後洗面台に行き、見守りや一部介助、全介助にて歯みがき・義歯洗浄を行っている。認知症の進行で嗽の出来なくなった利用者はガーゼで口腔内をふき取り清潔を保っている。訪問歯科も利用している。	口腔ケアは、食後の歯磨きだけでなく、舌のケアを大切に考え、支援に当たっている。ケア用品の消毒も徹底して行っている。口腔ケアに関する職員の気付きは、すぐに職員間で共有を図り、対応策を検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録表のチェックを行い、一人一人の排泄時間や様子を見て誘導を行っている。排泄記録表にて職員間の申し送りも実施している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の希望に沿った入浴は出来ていないがユニットにある個人浴を利用したり、車椅子の利用者は機械浴を利用し、身体機能に応じた入浴支援を行っている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はホールで利用者の様子を見ており、状況に応じて休憩が必要な時は居室に案内し休んで頂いている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の状況に少しでも異変が見られた時は薬情の確認や、看護師に定期薬の変更があったのかを尋ねたりし、原因を追究している。誤薬の無いよう服薬手順書を作成し、周知している。	職員間で意見を出し合い、その都度服薬手順書を見直している。職員のダブルチェックの他、服薬前に利用者本人にも確認してもらっている。薬の疑問点等は、主治医や薬剤師に問い合わせ、適切な服薬支援を行っている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年齢を重ねるにつれて軽作業が出来なくなっている中、得意な裁縫や編み物等出来る事を見つけて行っている。嗜好品を個別に対応・提供し満足感を得て貰っている。	利用者が、日常の役割り発揮で、積極的に家事に参加している。レクリエーションで、カフェに行った気分を味わえる演出をしたり、おやつを手作りする楽しみがある。日中の活動を職員が提案するだけでなく、利用者を選択してもらうことも大切にしている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に近所への散歩や移動スーパーを利用して、好きな物を買ったり、家族とも外出や外食を楽しんで貰っている。	気候が良く、天気の良い日には、職員が声を掛けて利用者と散歩に出掛けている。人込みへの外出はまだ再開していないが、買い物外出の代わりに移動スーパーを活用し、自分で買いたいものを選び、支払いも自分で行う等、生活の張り合いを感じてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望により、家族承認の上で現金を自己管理している利用者もいる。週2回の移動スーパーで買い物をし、利用者自身で支払いをして貰っている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望があれば必要に応じて支援している。年賀状を個人の状況に応じて職員が手伝い投函。家族様にも喜んで頂いた。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールには季節の花を飾り、ホールには季節に合わせた作品や利用者の日々の様子を掲示し、心地よい空間を作るよう努めている。	リビングの窓は大きく、ほどよい陽射しが差し込み、明るい雰囲気がる。隅々まで掃除が行き届いた、清潔感のある空間が保たれている。サンルームを共有空間から少し離れたい時等に、落ち着いた居場所として有効活用している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サンルームにソファを置き、くつろぎスペースとして提供している。利用者の相性を見て席の工夫をしている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していた物をお持ち頂ける様お願いしている。居室のボードには思い出の写真や本人の写真が飾ってある。簡易的な仏壇を用意している方もいる。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりが取り付けがあり、安全に配慮している。夜間はトイレのドアを開け、歩行器使用の方が安全に使用できるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102871		
法人名	医療法人社団久誠会		
事業所名	鏡島弘法前ケアセンター		
所在地	岐阜県岐阜市鏡島中2丁目9番13号		
自己評価作成日	令和6年10月5日	評価結果市町村受理日	令和7年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170102871-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和6年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族との繋がりを大切に、感染対策に注意しながら、出来る限り面会を継続するようにしている。最近家族と外出・外食を楽しんで貰っている。また、食事は少ない楽しみである為、利用者の希望を取り入れながら工夫を凝らして色々な食事を提供するようにしている。季節毎の行事で暮らしを豊かにするような工夫をしている。利用者一人一人の残存機能に適した作業やリハビリに取り組み、レクの充実に努めている。災害訓練・認知症についての勉強会など職員のスキルアップにも力を入れている。老健・居宅・デイサービスとも連携を取り、その時々で対応し地域の方々の安全な生活に繋がるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が考えた理念が出入り口に掲示しており、日々の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月一度の認知症カフェへの参加など、利用者の能力に応じた外出や地域との交流が行われている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に開催し、利用者の近況、行事などを報告している。家族からの疑問や希望を聞き、サービス向上につなげている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、事業所の実情やケアサービスの取組みを伝えている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で月一回の身体拘束と事故対策委員会が行われており、利用者の安全を常に意識し合っている。身体拘束マニュアルが作成されている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事故対策委員会実施の勉強会を行っている。毎月のミーティングでも管理者から注意喚起している。スピーチロックについても、圧迫感を与えず介護者の要望を伝える為の具体例が掲示してある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員の研修報告により、制度の把握に努めている。過去に後見人の活用事例はあるが、現在は活用を要する利用者はいない。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にグループホームでの生活状況を説明し理解と納得の上、契約頂いている。法改正や利用料の変更があった場合には、書面を用いて同意を頂いている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にはケアプランの説明や面会時に、利用者からは普段の会話より聞き取っている。運営推進会議にも参加して頂いている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングにて、業務に関する意見を出し合い話し合っている。一人一人の意見に対し実践し改善を行っている。また、日々の業務の中で意見を言いやすいような環境作りに努めている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	給料水準においてはキャリアパスを構築した。年に一度のリフレッシュ休暇や誕生日休暇が実施されている。人材不足の為規定日数の休暇が取れていない。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスの構築に伴い、希望の研修だけでなく、キャリアに応じた研修を選ぶことが出来る。研修委員会や管理者により、本人の資質やキャリアに応じた研修を具体的に勤めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修や勉強会の参加により、他事業所の職員との交流を図る様に一人一人が努力しているが、今は研修もオンラインで交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や会話の中で、昔の習慣や知恵を学ぶことがある。縫物や洗濯たたみ食材の皮むき等の日常生活や、TVや新聞の話題で喜怒哀楽を共有している。季節に応じて紫蘇ジュースやおはぎ作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向は、衛生面や事故のリスクを考慮した上で出来るだけ取り入れるように配慮している。好きだった歌や番組が見られる様に自室にテレビを置いている方もいる。移動販売での買い物を楽しんで貰っている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日誌等を確認して各自情報収集し、毎月のミーティングでは状況の変化や出来る事、問題等を話し合いそれに沿ったプランを立てている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録に加え、朝の申し送りや毎月のミーティングでは状況の変化や出来る事、問題等を話し合いそれに沿ったプランを立てている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアマネ、担当職員を軸に、面会時に家族からの意向や多職種からの意見を取り入れながら色々な実践の中から、より本人に添った支援を流動的に行っている。デイのボランティア行事に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族の面会、支援を受け外出・外食したりと家族・利用者様に安心・安全な支援を続けている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	系列法人の三浦医院に定期受診すると共に、本人・家族の希望に応じてかかりつけ医に受診して貰い、残薬状況を家族と共有している。本人の病状に合わせてそれに適した医療機関に受診して貰っている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する時は系列法人の医師が家族と相談し、医療機関を紹介している。入院中より医療機関との相談や情報交換は地域連携室を通じて密に行っている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は家族と医師とで話し合い、本人の病状と意思を聞きながら対応している。終末期における家族の揺れる思いや不安に対し、その都度十分な説明を行い、書面での確認を行い、家族が納得いく終末期を送れるよう支援している。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、事業所に置いてある。休日・夜間の連絡先に変更があればその都度周知している。救急隊への情報提供シートも作成。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	震災訓練・火災訓練(昼・夜間)・水害訓練を年間4回行っている。また月1回のミーティングで必要に応じ勉強会を実施している。地域との協力体制は不明。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人で接遇委員会を設置しており、全体目標・グループホーム目標を目の付く所に掲示し、言葉遣いの改善に取り組み、評価も行って意欲向上に努めている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人の会話や行動、表情等からその時の思いを感じ取り支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の状態や行動、習慣、今考えている事を察知しながら支援している。理解力のある方には直接希望を聞いている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の準備やテーブル拭き、食後の食器拭き等、利用者の協力を得ながら行っている。季節の食材や寿司・刺身等希望を聞きながら取り入れている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	DSの営業日には1階の厨房より昼食を提供してもらい、夕食や休日の食事は「何を」「どれだけ」食べたら良いかを考えながら職員が手作りしている。毎日食事・水分のチェックを行い体調の把握にも努めている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人の能力に応じ、毎食後洗面台に行き、見守りや一部介助、全介助にて歯みがき・義歯洗浄を行っている。認知症の進行で嗽の出来なくなった利用者はガーゼで口腔内をふき取り清潔を保っている。訪問歯科も利用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録表のチェックを行い、一人一人の排泄時間や様子を見て誘導を行っている。排泄記録表にて職員間の申し送りも実施している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の希望に沿った入浴は出来ていないがユニットにある個人浴を利用したり、車椅子の利用者は機械浴を利用し、身体機能に応じた入浴支援を行っている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はホールで利用者の様子を見ており、状況に応じて休憩が必要な時は居室に案内し休んで頂いている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の状況に少しでも異変が見られた時は薬情の確認や、看護師に定期薬の変更があったのかを尋ねたりし、原因を追究している。誤薬の無いよう服薬手順書を作成し、周知している。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年齢を重ねるにつれて軽作業が出来なくなっている中、得意な裁縫や編み物等出来る事を見つけて行っている。嗜好品を個別に対応・提供し満足感を得て貰っている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に近所への散歩や移動スーパーを利用して、好きな物を買ったり、家族とも外出や外食を楽しんで貰っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望により、家族承認の上で現金を自己管理している利用者もいる。週2回の移動スーパーで買い物をし、利用者自身で支払いをして貰っている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望があれば必要に応じて支援している。年賀状を個人の状況に応じて職員が手伝い投函。家族様にも喜んで頂いた。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールには季節の花を飾り、ホールには季節に合わせた作品や利用者の日々の様子を掲示し、心地よい空間を作るよう努めている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サンルームにソファを置き、くつろぎスペースとして提供している。利用者の相性を見て席の工夫をしている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していた物をお持ち頂ける様お願いしている。居室のボードには思い出の写真や本人の写真が飾ってある。簡易的な仏壇を用意している方もいる。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりが取り付けられてあり、安全に配慮している。夜間はトイレのドアを開け、歩行器使用の方が安全に使用できるようにしている。		